

もって移動しなければならない)。開口側の反対側(閉口側)の下から、おもちゃを掴んでいた手を滑らせておもちゃを離す。クリアボックスの閉口側の角を親指と他の指で押さえ、児がおもちゃをよく見ることができるようにする。そして、

「おもちゃを取ってごらん。さあ、取ってごらん」と言う。

児におもちゃを取る時間をおおよそ20秒間あたえる。

採点：児が開口側からおもちゃを取ることができたら採点。

施行上の注意：項目105を直後に行う。

B89. 6つのビーズを箱に入れる

<座位>

注意：児がビーズを口に入れないように気をつける

施行：ふたをした箱とビーズをテーブル上の児の手の届く位置に置く。ビーズを1つ取り、それを箱の中に落とし、

「見た？ここに入るんだよ。〇〇ちゃん、このビーズをこの中に入れてごらん。さあ、全部入れてごらん。」と言う。

検者は箱のふたが何かの拍子にはずれないようにしっかり押さえておく。しかし、児がビーズを入れるために箱のふたを外そうとする場合は、それをやめさせてはいけない。もし、児が箱のふたを外したりビーズを取ってしまった場合は、再度、施行し直す。

一連の施行を最大3回まで行う。

採点表には、1回の施行で児が最大いくつのビーズを入れることができたかを記録する。

採点：1回の施行中、ふたを閉めた状態で、最低6つのビーズを箱に入れることができたなら採点。

B90. 1つのピースをはめる -ブルーボード-

<座位>

ブルーボードの項目はピンクボードの項目の直前/直後に行ってはいけない。

施行：すべてのピースを検者側に置き、ボードを児の前に置く。児に丸いピースを児に手渡す。そして穴のほうをそれとなく指しながら、

「このピースを穴にはめてごらん。ちゃんと合う穴にはめるのよ。」と言う。

児がピースを握ったところから時間の計測を開始する。

四角のピースと丸いピースを交互に渡し(1度に手渡すピースは1つだけとする)、ピースを適切な位置に置くか、置くことができなくとも児が満足するまで観察する。児がすべてのピースを適切に置くことができるか、150秒間が経過したら終了する。

児に適切な位置に置くための何らかの手がかりを与えてはいけない。

児が150秒以内にすべてのピースを適切な位置に置くことができた場合は、採点表に完了した時間と置くことができたピースの数(9個)を記録する。もし、児が150秒以内にピースを置くことができなかった場合、終了した時間(150秒間)と置くことができたピースの数を記録する。

時間：児が初めのピースを持ったときから150秒間

採点：150秒以内に最低1つのピースを適切に置くことができれば採点。ピースは適切な場所にしっかりとハマっていなければいけない。

B91. 自発的に殴り書きをする

<座位>

施行：紙(画用紙)をテーブルの児側に置く。次にクレヨンを紙の上に、先端を児と反対に向け置く。

採点：検者の見本や促しを受けずに、児が自発的、かつ、意図的に殴り書きをしたら採点。児がクレヨンで遊んでいるときに偶然に紙に書いてしまったときは採点しない。

施行上の注意：項目 B103 を直後に行う。

シリーズの前項目：B60

B92. 丸箱を閉じる

〈座位〉

施行：ふたを閉めた状態で丸い箱を児の前に提示する。児が見ていることを確認して、ふたの開閉を2回繰り返す。ふたを開けた状態で、箱とふたを児の手の届く位置に置き、「箱を閉めてごらん。ふたを閉めてごらん。さあふたを閉めてごらん。」と言う。一連の施行を最大2回まで行う。(合計4回の開閉が許される)

採点：児が丸箱を閉じることができたら採点。

B93. 丸ピースをはめる - ピンクボード -

〈座位〉

ピンクボードの項目はブルーボードの項目の直前／直後に行ってはいけない。

施行：児に見られないように、テーブルの下かボードを膝にはさんで、ピースをボードにはめる。ピースをはめたボードをテーブルに置き、児に提示する。このとき丸いピースが児の近くになるようにする。「これから全部取るからね。」

と言いながらピースを外し、ボードと児の間に、児の左側から右側に向かって、四角、丸、三角の順序に置いていく。ボードに向かってそれとなく指し示しながら、

「○○ちゃん、ピースをはめてごらん。」と言い、児にピースを適切な位置にはめるように促す。

このときから時間の計測を開始する。

直接ピースのはいる穴を指さしてはいけない。

時間：児がピースを置くのに180秒間与える。

採点：180秒以内に、丸いピースをはめることができれば採点。

B94. ことばを真似る2

施行：検査を通して、児が検者のことばや、保護者のことばを模倣するかどうかを観察する。

もし、児がどのようなことばも発しないときは、児に向かって、楽しそうに、mama, dada, all gone, uh-oh, up, ball, that, thank you, baby, などと話しかけてみる。(ママ。パパ、ないない、あーあ、うえ、ばあ、だー、あれ、ありがとう。赤ちゃんなど)

採点：少なくとも児が1つのことばを模倣したら採点する。母音だけのことばでもよい。検者は、児が検査を通して繰り返したり、ランダムに発声したりすることばと、模倣することばとをしっかりと区別すること。模倣することばは、検査者のすぐ後に続いて繰り返されることばのことである。

シリーズの前項目：63

B95. 9つの積み木をカップに入れる

〈座位〉

施行：カップをテーブル上の児の手の届くところに置く。その際、カップの取手は検者側に向くようにする。積み木を1つカップの中に入れ、それを取り出して児に持たせ、

「カップの中に積み木を入れてごらん。カップの中に入れてごらん。」

と言って、積み木をカップに入れるように指し示す。一連の施行を最大3回まで行う。

もし、児が積み木をカップの中に入れることができれば、他の8つの積み木をテーブルの上に載せ、

「積み木をカップの中に入れてごらん。全部入れてごらん。」

と言って、積み木をカップに入れるように指し示す。これを最大3回まで繰り返す。

児に積み木を手渡してはならない。児がカップをひっくり返してしまったりしたときはそれらを元の位置に戻す。

採点表には、いくつの積み木をカップの中に入れられたかを記録する。

採点：1回の施行で9つの積み木をカップの中に入れることができれば採点

シリーズの前項目：B86

B96. 逆さまのカップからおもちゃを見つける

<座位>

この項目は項目 B84 の直後に行う

施行：うさぎのおもちゃと逆さまにしたカップ2個をテーブルの検者側に置く。うさぎを児に見せ、「見て。これはうさぎちゃんだよ。これから隠すからね。」と言い、

(児が見ているのを確認して)

「このカップの下に隠すからね。」

と言って、うさぎのおもちゃを児から見て右側のカップの下に隠す。カップの左右を逆にして、2つのカップを児に差し出し、

「うさぎちゃんを見つけてごらん。どこにうさぎちゃんがいるかな。」と言う。

この手順が一トライアルである。

一連の施行を最大3回まで行う。各施行でうさぎを入れる場所を変える。

採点表には、各施行で、児がどちら側のカップからうさぎを見つけたかを記録する。

採点：少なくとも2回の施行で、児が、間違わずに一度で正しいカップからうさぎを見つけられたならば採点。児は、左右両側のカップからうさぎを見つけなければならない。

施行上の注意：項目 B102 を直後に行う

シリーズの前項目：B84

(始) 17-19ヶ月

B97.2 つの積み木で塔を建てる

<積み木>

施行：12個すべての積み木をテーブルの上の検者の前に置く。3つの積み木を積み上げて、

「ほら、私の塔をみてごらん」と呼びかける。

次に、3つの積み木を児に差し出し、

「この積み木を使っておおきな塔を作ってごらん」と呼びかける。

検者が作った塔は見本として残しておくが、児がその塔の積み木を使いたがったならば、そうさせる。

もし児が3つの積み木で塔を建てたならば、残りの6つの積み木も児に差し出し、

「できるだけ大きな塔を作ってごらん。積み木を全部使うのよ。」と呼びかける。

ここまでの動作が1トライアルである。2回目以降のトライアルでは、積み木を全部児に差し出し、

「もう一つ塔を作ってごらん。できるだけ大きく作るのよ。」と言う

3トライアルまで行う。

児に直接積み木を手渡したり、いかなる方法でも積み上げるのを指示・誘導したりしてはいけない。

記録用紙には各トライアルで児が使った積み木の数を記録する。

採点：もし児が最低2つの積み木を使って塔を建てたならば採点する。採点を行うのは、児が手を離しても、積み木が上に載っている時のみである。崩れた間のは採点しない。検者が作った塔に積み木を足

した物は採点しない。

採点上の注意：項目 B123 もこの項目で採点する。

B98.70 秒以内にすべてのペグを差し込む<ペグボード>

施行：児に見られないように、テーブルの下かペグボードを膝にはさんで、ペグをペグボードに差し込む。ペグボードをテーブル上の児の正面、手の届くところに置き、児が見ている間に、1本ずつペグを取り外し、児とペグボードの間に、児の正中線上で、かつ、ペグボードに垂直になるように置く。最初にペグを、そして次に穴を指しながら、「このペグを穴に入れてごらん。全部入れてごらん。」と言う。児が最初のペグを手を持った時から時間の観測を開始し、すべてのペグを入れるまでか、70秒が経過するまで観察する。

もし児が1つかそれ以上のペグを70秒以内に入れることができた場合は、最大3回まで繰り返し行う。これは検者がペグボードにペグを入れているところを児に見られていないかを確認するために行う。

検者はペグボードを固定したり、また転がったペグを元に戻すことはしてよいが、ペグを手渡したり、ペグをペグボードに入れて見せたりすることはやってはいけない。児がすべての穴をふさぐことを理解せず、1つの穴に繰り返し指したり抜いたりしている場合、穴に入れたらそれを離すように説得する。「それらのペグを全部穴に入れるんだよ。」後は、児自身のやり方に任せておく。

もし児が70秒以内にすべてのペグを入れることができたなら、採点表に完了までにかかった時間と、何本のペグを入れることができたかを記入する（この場合6本）。

時間：最初のペグを持ったときから70秒間。

採点：もし児が70秒以内ですべてのペグを差し込めば採点。

採点上の注意：項目 B119 もここで採点する。

シリーズの全項目：項目 B87

B99.2 つの絵を指し示す

<指示本>

施行：項目B99/109/122/133と指示された指示本の始めのページを開け、児の正面のテーブルの上に置く。犬を指差し、尋ねる。

「これは何？」あるいは、

「これが何なのか教えて。」

児の反応に関わらず、ページの他の絵のひとつひとつについて指差し尋ねる。

「これは何？」

反応を促すために、児がどんな答えを出しても喜ぶそぶりを見せる。名前の反応が無かった絵については一度のみ繰り返す。

次に2番目のページを開け、時計より始めて絵毎に名前を尋ねる。名前の反応が無かった絵について一度のみ繰り返す。

各ページの、各絵毎に児に名前を言う機会を2度与えた後、児が正確に名前を言えなかった絵に戻り、指差さないで言う。

「(絵の名前)を見せて、(絵の名前)の上に指をのせて。」

記録用紙には児が正確に名前を言い、指差した絵にチェックを入れる。

採点：児が少なくとも2つの絵を指し示したならば採点する。適切な名前とは描かれた対象が属するもの（例；犬、子犬）、であり、固有名詞（例；犬に対してポチ）ではない。例外は靴や車で、ある種の固有名詞は適切である。児の意図が明解である限り、拙い発音や正答に近いもの容認してもよい。以下に正答、誤答のサンプルリストを示す。(項目 B109 参照)

採点上の注意：項目 B109、122、133 もここで採点する。

B100.2つの異なる言葉を的確に使う

<観察項目>

施行：検査期間を通じて、児が対象や状況に応じて正確に、自発的に応答した言葉を聴取し、記録する。もし児が、いかなるこれらの言葉をも発しなかったならば、養育者に、児が普段どのような言葉を使うかを尋ねる。その上で、慣れ親しんだ対象を見せて児の言葉を誘発する。養育者から聞き出したすべての言葉を記録するが、採点してはならない。

採点：もし児が2つの異なる言葉を正確に使ったならば採点。意味があって使っているのならば、ママ、パパ、あーあー、バイバイなども採点する。児の意図が明解である限り、拙い発音や正答に近いもの容認してもよい。真似て発した言葉（検者や養育者が発した言葉をオウム返しにしたものなど）は採点しない。検者が聴取した児の言葉のみを採点する。

シリーズの前項目：項目 94

(終) 12ヶ月

B101.靴や洋服など、言われたものを示す

施行：検査期間を通じて、児が自分の靴を簡単に見たり指さしたりできる体勢において、「あなたの靴はどこ？靴を見せて。」

と尋ねる。(簡潔な言葉の方が児には理解しやすいだろう。)児が靴を指し示したときに、それがみえるようにしておく。

もし児が靴を履いていなかった場合は、身につけている他のもので児が名前を知っていそうな物(コート等)や、対象の名前(おもちゃ、カップなど)について尋ねる。養育者に児が知っていそうな物を尋ねても良い。

記録紙には、あなたが児に尋ねた物の名前と、児が答えた物の名前を記録する。

採点：もし、検者の要求に対して、児が対象物を指し示したり触ったり、明らかに見たならば採点する。

B102.おもちゃを取り出す(みている前で置き換え)

<カップとおもちゃ>

この項目は項目 96の直後に施行する。

施行：二つの逆さにしたカップを児の前のテーブルの上に並列しておく。児に向かって、

「○○ちゃん、ほらみて。うさぎさんを隠しますよ。」と言う。

児が見ているのを確認した上で、児の右側のカップにウサギを隠す。次に、児がまだ見ているうちに、おどけた口調で

「もう一度隠しちゃうよー。」

と言いながら、ウサギを素早く取り出して児の左のカップの下に移す。

もし児が、すぐにウサギを探しに行かなかったならば、

「ウサギさんはどこ？私にウサギさんを見せて。」

という。ここまでが1トライアルである。

左右を逆にして、最大で3トライアルまでを行う。

記録用紙には、児が間違わずにウサギを探し当てたトライアルにチェックを入れる。

採点：少なくとも2つのトライアルで、児が間違わずにウサギを探し当てたならば採点。左右いずれにおいてもウサギを探し当てなければならない。

シリーズの前項目：項目 96

B103. クレヨンで線を真似して描く

<クレヨンと紙>

この項目は項目 B91 の直後に施行する。

施行：児の正面上のテーブルの上に白紙を置く。次に、先を児の反対の方向に向けてクレヨンを紙の上に置く。もう一つのクレヨンを使って、紙に、児の方に向かって勢いよくクレヨンを動かし、「ほら見てごらん。シュツツ！やっでご覧！」と言いながら垂直な直線を描く。

児に直線を描くのに十分な時間を与える。

このお手本と指示を最大で2回行う。

児の反応に関わらず、

「今度はこっちにいてごらん。シュツツ！やっでごらん」

と言いながら、検者の右から左へと水平な直線を描く。

このお手本と指示も最大で2回行う。

紙を安定させるために、支えていても良い。

採点：もし児がどの方向にでも直線を描けば採点。

施行上の注意：項目 B116 はこの項目の直後に施行する。

シリーズの前項目：項目 B91

B104. おもちゃを得るのに棒を使う

<おもちゃと棒>

施行：ウサギの人形を、テーブル上で児の手が届かず、棒を使って3、4の動作を行わなければとれないところに置く。(テーブルを縦にする)棒を使って児の方にウサギを押しながら、

「どうやったらウサギさんがとれるか見せてあげようか」と言う。

次に、ウサギを本の場所にもどし、棒を児の手の届くところに置き、

「〇〇ちゃん、ウサギさんをとってごらん。」と言う。

もし児が反応しなかったならば、検者が児の側で児の横に行き、期待される動作を行ってみせ、「うさぎさん、おいで、おいで。」という。

採点：もし児が、棒を使ってウサギを得ようと試みたならば、実際に得ることができなくても採点する。しかし児が、引き寄せ用とする意図が無く、ただ闇雲に棒でウサギをたたいた場合は採点しない。

B105. おもちゃを取り出す(クリアボックス II)

<おもちゃとクリアボックス>

この項目は項目 B88 の直後におこなう。

施行：おもちゃをクリアボックスの中に入れ、同時におもちゃとクリアボックスを児の前に提示する。このとき、クリアボックスの開口側を児の左方に向けて提示する。児が開口側からおもちゃを見ることが出来ないように、箱はできるだけ児に近づける(児が開口側からおもちゃを見るためには児自身が意図をもって移動しなければならない)。開口側の反対側(閉口側)の下から、おもちゃを掴んでいた手を滑らせておもちゃを離す。クリアボックスの閉口側の角を親指と他の指で押さえ、児がおもちゃをよく見ることができるようにする。そして、

「おもちゃを取ってごらん。さあ、取ってごらん」と言う。
児におもちゃを取る時間をおおよそ20秒間あたえる。
児の反応に関わらず、2トライアル目は、開口側を児の右に向けて行う。

採点表には児がウサギを取り出すことができたトライアルにチェックを入れる。
採点：両方のトライアルで、約20秒間で、児がクリアボックスからおもちゃを取り出すことができたならば採点。

シリーズの前項目：B88

(終) 13ヶ月

B106. 言葉を使って要求を伝える

施行：検査期間を通じて、児が自分の要求を伝える為に使いたいかなる言葉にも留意し、記録する。
この時期の児は、通常、上、下、もっと、私の、いや、欲しい、どうぞ、コップ、瓶、等の一つの単語を、命令口調や身振りを交えながら使う。

採点：もし、児が要求を伝えるのに少なくとも一つの言葉を使えば採点する。

(始) 20-22ヶ月

B107. 指示に従う (人形)

<人形>

施行：以下の3つのトライアルを施行する。

トライアル1. 人形を、児の手が届く範囲のテーブルの上に座らせる。児にスプーンを手渡し、「お人形さんはお腹が減っています。食べさせてあげて」と言う。
児に応答させるだけの時間を与え、そしてスプーンをのぞく。

トライアル2. 児に櫛を手渡し、「ここに、櫛があります。お人形さんの髪をこれでとかしてあげて」と言う。
児に応答させるだけの時間を与え、そして櫛をのぞく。

トライアル3. ティッシュを児に手渡し、「ここにティッシュがあります。お人形さんのお鼻を拭いてあげて」と言う。
児は指示に従って、しばしば、自分で自分に食べさせたり、自分の髪をといたり、鼻をかんだりする。そのような場合には、適切な指示を再び与えて良いが、人形を指さしてはならない。

記録用紙には、児が正確に応答したトライアルをチェックする。

採点：トライアル1の正しい応答では、児は、人形の額と肩の間に意図的にスプーンを動かしていなければならない。

トライアル2では、児は人形の髪をとかす動作をしなければならない。

トライアル3では、児は人形の顔のどこかを拭いていなければならない。

もし児が自分にその動作を行おうと固執する場合は、不適切と採点する。少なくとも2つのトライアルで正しく応答すれば採点する。

シリーズの前項目：項目 B101

B108. 人形の部位を3つ指し示す

<人形>

施行：人形を児の手が届くところに持ち、

「お人形さんの髪をみせて」と言う。もし児が応答しなかったならば、
「お人形さんの髪はどこ？」と言う。それでも児が反応しなかったならば、
「髪は？」と言う。

口、耳、手、目、足、鼻についても同じ手順を行う。記録用紙には、児が正確に認識した3つの部位を
チェックする。

採点：もし児が正確に人形の部位を3つ指し示せば採点。

シリーズの前項目：項目 B107

B109. 一つの絵の名前を言う

<指示本>

施行：項目B99/109/122/133と指示された指示本の始めのページを開け、児の正面のテーブルの上に置く。
犬を指差し、尋ねる。

「これは何？」あるいは、

「これが何なのか教えて。」

児の反応に関わらず、ページの他の絵のひとつひとつについて指差し尋ねる。

「これは何？」

反応を促すために、児がどんな答えを出しても喜ぶそぶりを見せる。名前の反応が無かった絵について
は一度のみ繰り返す。

次に2番目のページを開け、時計より始めて絵毎に名前を尋ねる。名前の反応が無かった絵について一
度のみ繰り返す。

各ページの、各絵毎に児に名前を言う機会を2度与えた後、児が正確に名前を言えなかった絵に戻り、指
差さないで言う。

「(絵の名前)を見せて、(絵の名前)の上に指をのせて。」

記録フォームでは児が正確に名前を言い、指差した絵毎にチェックを入れる。

採点：もし児が、最低1つの絵の名前を正しく言えたならば採点。適切な名前とは描かれた対象が属す
るもの(例；犬、子犬)、であり、固有名詞(例；犬に対してポチ)ではない。例外は靴や車で、ある種
の固有名詞は適切である。児の意図が明解である限り、拙い発音や正答に近いもの容認してもよい。以
下に正答、誤答のサンプルリストを示す。

採点上の注意：項目 B122、133 もここで採点する。

シリーズの前項目：項目 B99

項目 B99/109/122/133

始めのページ

正答

靴 犬 カップ 家 スニーカー 子犬 ティーカップ ホーム テニスシューズ わ
んちゃん コーヒーカップ アパート (リーボック、 わんわん マグカップ コンバース、等)

誤答

ネクタイ	Rover (飼い犬に多い名)	コーヒー	窓
ヒモ	豹	グラス	ドア
足	牛	ボウル	ビル
ブーツ	馬		納屋

2 番目のページ

正答

時計	本	魚	星	葉っぱ	車
ウォッチ	本	金魚	星	葉っぱ	自動車
チクタク	物語の本	おさかなさん			おもちゃの車
タイマー	塗絵の本	クロマス	のりもの		
計時機					(シボレー、フォード)

誤答

time thing	ページ	泳ぎ手	旗	木の一部	バス
円	箱	サメ	月	木	列車
部品	書類	動物		花	トロリー

B110. ひとつのものの名前をいう <ボール、絵本、鉛筆、スプーン、カップ>

施行：5つおもちゃをテーブルの上で児の手の届くところに置く。児に探索するだけの時間を与える。もし児がおもちゃをひとつ取り上げたならば、
「それはなあに？何を持っているの？」
と尋ねる。もし児が2分以内にすべてのおもちゃを探索しなかったならば、探索しなかったおもちゃをひとつひとつ取り上げ、
「これはなあに？私は何を持っている？」とたずねる。

記録用紙には児が正しく名前を言ったものにチェックを入れる。

採点：もし児が最低一つでも正しく名前を言えたならば採点する。児の意図が明解である限り、拙い発音や正答に近いもの容認してもよい。以下が正しい答えの例である。

ボール	絵本	カップ	スプーン	鉛筆
ボール	絵本	コーヒーカップ	スプーン	ペン
球	本	カップ	茶さじ	など

採点上の注意：項目 B126 もここで採点する。

B111. 身振りと言葉を組み合わせる <観察項目>

施行：検査期間を通じて、児が自分を表現するのに身振りと言葉を同時に使うかどうかを観察する。この様な行動とは、ママと呼びながら母を指したり、ボールと言いながらボールを取ろうとしたりする行動である。

採点：もし児が身振りと言葉を組み合わせれば採点。

シリーズの前項目：B106

(終) 14-16ヶ月

B112.150 秒以内に4つのピースをはめる(ブルーボード) <ブルーボード>

ブルーボードの項目はピンクボードの項目の直前／直後に行ってはいけない。

施行：すべてのピースを検者側に置き、ボードを児の前に置く。児に丸いピースを児に手渡す。そして穴のほうをそれとなく指しながら、
「このピースを穴にはめてごらん。ちゃんと合う穴にはめるのよ。」と言う。

児がピースを握ったところから時間の計測を開始する。

四角のピースと丸いピースを交互に渡し(1度に手渡すピースは1つだけとする)、ピースを適切な位置に置くか、置くことができなくとも児が満足するまで観察する。児がすべてのピースを適切に置くことができるか、150秒間が経過したら終了する。

児に適切な位置に置くための何らかの手がかりを与えてはいけない。

児が150秒以内にすべてのピースを適切な位置に置くことができた場合は、採点表に完了した時間と置くことができたピースの数(9個)を記録する。もし、児が150秒以内にピースを置くことができなかった場合、終了した時間(150秒間)と置くことができたピースの数を記録する。

時間：児が初めてのピースを持ったときから150秒間

採点：150秒以内に最低4つのピースを適切に置くことができれば採点。ピースは適切な場所にしっかりとハマっていないといけない。

シリーズの前項目：B90

B113.8つの異なる言葉を話す

<観察項目>

施行：検査期間を通じて、児があるものや状況に応じて自発的で、適切に言葉を使うかどうかを観察し記録する。

もし児がどんな言葉も使わなかったならば、養育者に児がどのような言葉を使うかどうかを尋ねる。児になじみの深いものを見せて児の言葉を誘発する。

養育者が報告した言葉を記録用紙に記録するが、採点してはならない。

採点：もし児が8つの異なる言葉を使えば採点。採点するのはあーあ、うん、などの意味のある言葉である。児の意図が明解である限り、拙い発音や正答に近いもの容認してもよい。真似て発した言葉(検者や養育者が発した言葉をオウム返しにしたものなど)は採点しない。検者が聴取した児の言葉のみを採点する。

シリーズの前項目：B111

B114. 続きの2語を発声する

<観察項目>

施行：検査期間を通じて、児が発する続きの2語で、各言葉が異なる意味(概念)を持つものを観察し記録する。代表的なものは、あれなに、よいねこ、クリスティンバイバイ、あなたやって、パパどこ？ 私チョウダイなどである。

採点：もし児が各言葉が異なる意味(概念)を持つ2つの言葉を使った一連の発声を行えば採点。一つの意味しか持たない2語の組み合わせ(バイバイ、ないない)などは採点してはならない。2語は正しい用法で、2語の間に明らかな間があってはならない。

シリーズの前項目：B113

B115.180秒以内にピンクボードを完成させる

<ピンクボード>

ピンクボードの項目はブルーボードの項目の直前/直後に行ってはいけない。

施行：児に見られないように、テーブルの下かボードを膝にはきんで、ピースをボードにはめる。ピースをはめたボードをテーブルに置き、児に提示する。このとき丸いピースが児の近くになるようにする。「これから全部取るからね。」

と言いながらピースを外し、ボードと児の間に、児の左側から右側に向かって、四角、丸、三角の順序に置いていく。ボードに向かってそれとなく指し示しながら、

「○○ちゃん、ピースをはめてごらん。」と言い、児にピースを適切な位置にはめるように促す。
このときから時間の計測を開始する。
直接ピースのはいる穴を指さしてはいけない。

時間：児がピースを置くのに 180 秒間与える。

採点：180 秒以内に、全てのピースをはめることができたなら採点。

施行上の注意：もし児がこの項目で採点を得られたならば、直後に項目 B120 を行う。もし児がこの項目で採点されなかったならば、項目 B120 は施行・採点しない。

シリーズの前項目：B93

B116. 線と曲線(なぐり書き)を区別する

〈クレヨンと紙〉

この項目は項目 B103 の直後に施行する。

施行：児の正面上のテーブルの上に白紙を置く。次に、先を児の反対の方向に向けてクレヨンを紙の上に置く。もう一つのクレヨンを使って、紙に、児の方に向かって勢いよくクレヨンを動かし、「ほら見てごらん。シュツツ！やっでご覧！」と言いながら垂直な直線を描く。

児に直線を描くのに十分な時間を与える。

このお手本と指示を最大で 2 回行う。

児の反応に関わらず、

「今度はこっちにいてごらん。シュツツ！やっでごらん」

と言いながら、検者の右から左へと水平な直線を描く。

このお手本と指示も最大で 2 回行う。

上記で児が直線を描いたならば、今度は丸い落書き（グジャグジャ書き）を行い、

「今度はこんな風にしてごらん。やっでごらん。」と言う。

もし児が直線を描けなかったならば、この項目は施行・採点しない。

このお手本と指示も最大で 2 回行う。

紙を安定させるために、支えていても良い。

採点：もし児が最初にどの方向にでも直線を描き、次に指示に従い直線から丸書きに変われば採点。

採点上の注意：この項目で項目 B139 も採点する。

シリーズの前項目：B103

B117. 2 語文を真似る

施行：検査中を通して、児が検者や養育者の複数語文を真似るか否かに注意を払う。

もし児が複数語文を真似なかった場合、楽しげに、以下のような、または児が知っているであろう複数語文を言ってみる。

「ママ行く；パパ食べる；赤ちゃん飲む；家帰る；ここいれる；これ何？」

文を数回繰り返してみても良い。(3 回)

採点：児が複数語文を真似た場合、点を与える。児の意図が明快な場合は上手くない発音や近い言語も許容してよい。

シリーズの前項目：B114

B118. 写真の物を認識する

<物と指示本>

施行：児を真直ぐに坐らせ、可能な限りテーブルの端に近付ける。指示本のトレー写真の順に、トレーの中に全てのものを入れ、車や積み木を可能な限り児に近付けるように配置し、トレイは9インチ(約23センチ)児から離す。ウサギを指差し尋ねる。

「これ何？」

児がウサギと名前を言った場合(近い名前でも容認)、対象物を隠すために盾を置く。次に、トレーの配置と同様に、盾の前のテーブル上にトレー写真を置き、

「この写真のなかで私に(児がウサギにつけた名前)を見せて」とたずねる。

児の反応に関わらず、ベル、積み木、車、三角形に対してもこの手順を繰り返す。

児がもの名前を言えないのであれば、彼(彼女)のために名前を言っても良い

記録は、対象物とトレー写真の中で児が正確に指差したものに空欄にチェックを入れる。

採点：児が写真の中で少なくとも2個を正確に指差した場合、点を与える。

B119.25秒以内にすべてのペグを差し込む

<ペグボード>

施行：児に見られないように、テーブルの下かペグボードを膝にはさんで、ペグをペグボードに差し込む。ペグボードをテーブル上の児の正面、手の届くところに置き、児が見ている間に、1本ずつペグを取り外し、児とペグボードの間に、児の正中線上で、かつ、ペグボードに垂直になるように置く。最初にペグを、そして次に穴を指しながら、

「このペグを穴に入れてごらん。全部入れてごらん。」と言う。

児が最初のペグを手を持った時から時間の観測を開始し、すべてのペグを入れるまでか、70秒が経過するまで観察する。

もし児が1つかそれ以上のペグを70秒以内に入れることができた場合は、最大3回まで繰り返す。これは検者がペグボードにペグを入れているところを児に見られていないかを確認するために行う。

検者はペグボードを固定したり、また転がったペグを元に戻すことはしてよいが、ペグを手渡したり、ペグをペグボードに入れて見せたりすることはやってはいけない。児がすべての穴をふさぐことを理解せず、1つの穴に繰り返し指したり抜いたりしている場合、穴に入れたらそれを離すように説得する。

「それらのペグを全部穴に入れるんだよ。」

後は、児自身のやり方に任せておく。

もし児が70秒以内にすべてのペグを入れることができたなら、採点表に完了までにかかった時間と、何本のペグを入れることができたかを記入する(この場合6本)。

時間：最初のペグを持ったときから70秒間。

採点：児が25秒以内に全てのペグを入れた場合採点する。

シリーズの前項目：B98

B120. 逆さにしたピンクボードを完成させる

<ピンクボード>

と言いながらピースを外し、ボードと児の間に、児の左側から右側に向かって、四角、丸、三角の順序に置いていく。ボードに向かってそれとなく指し示しながら、

「○○ちゃん、ピースをはめてごらん。」と言い、児にピースを適切な位置にはめるように促す。

このときから時間の計測を開始する。

直接ピースのはいる穴を指さしてはいけない。

時間：児がピースを置くのに 180 秒間与える。

児が項目 B115 で点を得ている場合、その直後に施行する。青ボードの項目の前後に本項を施行してはならない。

施行：ピースが正しくボードの上に配置されているかを確認。丸ピースが最も児に近くなるように児の正面のテーブルの上にボードを置く。児が見ている時にピースを外し、

「今から外しますよ」と言う。

ピースをボードと児の間に、児から見て左から四角、丸、三角の順に置く。それから、

「私が何するか見てよ。」といい、

ボードをテーブルから離し、ゆっくり、慎重に四角形の穴が児の右側になるように 180° 回転させる。それから、ピースからボードまで身ぶりを加えながら、

「さあ、ピースをはめてごらん」と言う。

直接に穴を指してはいけない。児がボードを元の配置に回転させてはいけない。

採点：児がボードの配置が逆のままで 3 つのピース全てを入れたら採点する。

シリーズの前項目：B115

B121. 代名詞を使う

施行：検査中を通して、児が使う代名詞を聞き、記録する。よく使われる代名詞の例としては、私の、私を、私、あなた、それ、私のもの、彼女、彼等である。

児が代名詞を全く使わない場合、児の服を指差し、

「これは誰の(物品の名称)? それはあなたの(物品の名称)?」と聞く。

記録用紙には、児が使ったいかなる代名詞も記録する。

採点：児が一つでも代名詞を使ったら採点。代名詞の使用は文法的な正確さを要しない。

B122.5 つの絵を指し示す

<指示本>

項目 B99、109 を参照

採点：児が少なくとも 5 個の絵を正確に指差した場合、点を与える。正しい名前には描かれたものが属するもの(例; 犬、子犬)を含むが、不適切な名詞(例; 犬に対して(Barney)は含まない。例外は特定の名詞が許容される場合の靴や車である。児の意図が明確である限り、上手くない発音や近い言葉を許容してもよい。以下に正答、誤答のサンプルリストを示す。(項目 B109 参照)

採点上の注釈：この施行から項目 B133 も採点する。

B123.6 つの積み木の塔をたてる

<積み木>

項目 B97 を参照

採点：もし児が最低 6 つの積み木を使って塔を建てたならば採点する。採点を行うのは、児が手を離しても、積み木が上に載っている時のみである。崩れたものは採点しない。検者が作った塔に積み木を足した物も採点しない。

採点上の注意：項目 B135(8 個の積み木で塔を建てる)もこの項目で採点する

シリーズの前項目：項目 B97

B124. 絵本、積み木と鍵を区別する

<座位>

施行：児の左から順に、本、積み木、鍵を児の手の届く範囲に、テーブルの上に直線に並べ、

「積み木を見せて、お願い見せてください。」と言う。
いかなる反応にも、
「ありがとう」と褒める。

もとの位置から動いたものは元の位置に戻す。次に、
「鍵を見せて、鍵を見せて下さい。」と言う。
この方法を絵本を使って繰り返す。
対象毎に最大三回まで指示を与える。

記録用紙には、児が正確に同定した対象毎にチェックを入れる。(本項の採点部分を参照)
採点：児が正確に3つの対象を同定した場合、たとえ児がそれらを手放さなくても採点する。児は対象を同定するのに手渡しでも、とり上げるのでも、指差すのでも、触るのでもよい。

B125. 絵を合わせる

<指示本>

施行：項目B125のページに指示本を開く。指示本は児の正面のテーブルの上に平らに置く。ページの上半分にある飛行機を指差し、児に言う。

「これは飛行機ですよ。」

それからページの下半分を撫でる動作をして、言う。

「他の飛行機を見つけられる？下にある飛行機を見せて。」

児が項目B125Aについて正確な反応を示した場合、同じ方法で項目B125B(三輪車)、B125C(木)、B125D(電話)と示していく。

児が項目B125Aについて正確な反応を示さなかった場合、下半分にある飛行機を指差し、言う。

「ここにもう一つ飛行機があるよ、これとよく似てるでしょ。」(上半分にある飛行機を指差しながら)

それから、それ以上の助けを与えずに項目B125B、B125C、B125Dを示していく。

児がページ上で1つ以上の絵を指差した場合は尋ねる。

「どっちなの？」

それでも児が1つの絵を指差さない場合は、誤答とみなす。

記録用紙には、児が正確に対象を同定したページにチェックを入れる。

採点：児が少なくとも3つ、正確に対象を同定した場合、点を与える。

B126.3つの物の名前を言う

施行：児の手の届く範囲のテーブルの上に5つの対象物をのせる。児に対象物を探索するのに十分な時間を与える。児が対象を取り上げた時に、聞く

「それは何？何を持っているの？」

児が2分以内で全ての対象を探索しなかった場合はその対象物を取り上げ、児に尋ねる。

「これは何？私が持っているのは何？」

記録用紙には児が正確に名前を言った対象物にチェックを入れる。

採点：児が少なくとも3つの対象物の名前を性格に言ったならば採点。児の意図が明確である限り、上手くない発音や近い言葉を許容してもよい。以下に正答のサンプルリストを示す。

シリーズの前項目：B110

正答

ボール

絵本

カップ

スプーン

鉛筆

ベースボール 絵本 ティーカップ ティースプーン ペン
バスケットボール 本 コーヒーカップ テーブルスプーン
キックボール
サッカーボール
bouncy ball

B127.3 語文を使う

<観察項目>

施行：検査中を通して、児の少なくとも3語は含む文を聞き、記録する。よくある例としては、パパ、家、帰る。私、おもちゃ、ちょうだい。それ、もう一回、やって。私、ボールをとる、などである。

採点：児が検査中に3語文を使った場合は点を与える。文は文法的な正確さを要しない。

シリーズの前項目：B117

(終) 17-19ヶ月

B128.3 つの色を合わせる

<指示本>

施行：指示本の項目 B128 のページを開き、児の前のテーブルの上に置く。赤い円盤を本の手前におき、赤い円盤と、本の中の赤い円を指差しながら、「赤だね。両方とも赤だね。」と言う。
円盤を児の方に押しやり、「この赤いのをここに置いてごらん」と言う。
(指示本の赤い円を指差す)

もし児が正しく反応したならば、赤い円盤を除いて黄色の円盤を児の前に置き、指示本のページを指し示しながら、

「ほら。これはどこに行くの？」と言う。

児に反応するだけの時間を与える。その後、児の反応にかかわらず黄色の円盤を取り除き、青い円盤について同じ手順を繰り返す。

もし児が赤い円盤を配置させることに困惑しているようならば(理解していないようならば)、実演と指示を繰り返し、そして児に応答する時間を与える。児の反応にかかわらず、赤い円盤を除き、その後、黄色と青の円盤については、これ以上の助けを与えずに前述の手順をおこなう。

記録用紙には、児が正確に合わせた色の欄にチェックを入れる。(合わせることの基準については、本項採点の部分参照。)

採点：もし児が、3つの円盤をすべて指示本の同じ色の円の上または近くに置くか、あるいは同じ色の円を指差せば採点。

施行嬢の注意：項目 B137 はこの項目の直後に施行する。

B129. 続きの言葉を発声する

<観察項目>

施行：検査中を通して、児が発する続きの言葉を注意深く聞き、記録する。これは、検者や児が発した始めの言葉(主語・主題)に対し、新しい情報を付け加えるものである。この言葉の例としては、車を提示され、「ここに車がありますよ」と言われた時に児が、「車、青」と答え、車に対して新しい情報を付け加えた場合などである。

続きの言葉とは、検者が児に発した言葉が一部繰り返されていても良いが、新たな情報が加えられてい

なければならない。文章である必要はないが、意味は正しくなければならない。例えば、青い車に対して「車、赤」などと答えた場合は採点してはならない。

記録用紙には児が発した言葉を記録する。

採点：児が検査中に、児や他の人間が発した始めの言葉に対し、新しい情報を付け加える続きの言葉を使った場合は点を与える。

シリーズの前項目：B127

B130.75 秒以内に青ボードを完成させる

<青ボード>

ブルーボードの項目はピンクボードの項目の直前／直後に行ってはいけない。

施行：すべてのピースを検者側に置き、ボードを児の前に置く。児に丸いピースを児に手渡す。そして穴のほうをそれとなく指しながら、「このピースを穴にはめてごらん。ちゃんと合う穴にはめるのよ。」と言う。

児がピースを握ったところから時間の計測を開始する。四角のピースと丸いピースを交互に渡し（1度に手渡すピースは1つだけとする）、ピースを適切な位置に置くか、置くことができなくとも児が満足するまで観察する。児がすべてのピースを適切に置くことができるか、150秒間が経過したら終了する。児に適切な位置に置くための何らかの手がかりを与えてはいけない。

児が150秒以内にすべてのピースを適切な位置に置くことができた場合は、採点表に完了した時間と置くことができたピースの数(9個)を記録する。もし、児が150秒以内にピースを置くことができなかった場合、終了した時間（150秒間）と置くことができたピースの数を記録する。

時間：児が初めのピースを持ったときから150秒間

採点：75秒以内に児がすべてのピースを適切に置くことができれば採点。ピースは適切な場所にしっかりとハマっていないといけない。

シリーズの前項目：B112

B131. 読み聴かせに参加する

<絵本>

施行：児の正面のテーブルの上に本を置く。始めのページを開け、「ほら、みてごらん！」と声をかける。

児に本を探索したり、ページをめくったり、絵をみたりする機会をあたえ、「じゃあおはなしを読んでみましょう」と言い、

児の隣になるように検者の位置を移動する。児から本を回収し、開き、「お話を聴いているのですよ」と言いながら、本を読み始める。

採点：もし児が話しのはじめから終わりまで、読み聞かせに参加すれば採点。読み聞かせに参加するとは、動きを止めて絵を見たり、言葉を聞いたり、検者に絵のことについて話しかけたりすることである。

シリーズの前項目：73

B132.120 秒で繋がれたビーズをチューブに入れる

<チューブとビーズ>

施行：テーブルの、児の手が届くところにチューブと糸で繋がれたビーズを置く。もし児が双方を拾い上げたならば、ビーズからチューブへと指を指して、「ビーズをチューブに入れてごらん。全部入れるのよ。」と言う。

時間の計測を始める。

もし児が自発的にチューブとビーズを取り上げなかったならば、それらを児に手渡し、指示を与え、時間の計測を始める。

指示は最大2回まで行っても良い。

時間：ビーズをチューブに入れるのに120秒間を与える。

採点：もし児が120秒以内ですべての繋がれたビーズをチューブに入れることが出来れば採点。

B133. 5つの絵の名前を言う

<指示本>

施行：項目B99/109/122/133の指示本の始めのページを開け、児の正面のテーブルの上に平らにして置く。犬を指差し、尋ねる。

「これは何？」あるいは、

「これが何なのか教えて。」

児の反応に関わらず、ページの他の絵のひとつひとつについて指差し尋ねる。

「これは何？」

反応を促すために、児がどんな答えを出しても喜ぶそぶりを見せる。名前の反応が無かった絵については一度のみ繰り返す。

次に2番目のページを開け、時計より始めて絵毎に名前を尋ねる。名前の反応が無かった絵について一度のみ繰り返す。

各ページの、各絵毎に児に名前を言う機会を2度与えた後、児が正確に名前を言えなかった絵に戻り、指差さないで言う。

「(絵の名前)を見せて、(絵の名前)の上に指をのせて。」

記録用紙には児が正確に名前を言い、指差した絵にチェックを入れる。

採点：もし児が、最低5つの絵の名前を正しく言えたならば採点。適切な名前とは描かれた対象が属するもの(例；犬、子犬)、であり、固有名詞(例；犬に対してポチ)ではない。例外は靴や車で、ある種の固有名詞は適切である。児の意図が明解である限り、拙い発音や正答に近いもの容認してもよい。以下に正答、誤答のサンプルリストを示す。(項目B109参照)

シリーズの前項目：項目B122

B134. 言葉に理解を示す

<指示本>

施行：指示本の項目B134の項目のページを開く。テーブルの上に平らにして、児の正面になるように置く。そして、

「今からお話を読みますよ。どの絵のお話を読んでいるのか指を指してごらん」と言う。

トライアル1

「子どもたちが一緒にボール遊びをしています。子どもたちが一緒にボール遊びをしている絵はどれかな？絵を指さしてごらん。」と言う。

もし児がトライアル1に正しく応答したならば、トライアル2-6についても以下の文を読みながら一つずつ提示を行う。

「じゃあ今度は・・・の絵を指さしてごらん」

もし児がトライアル1に正しく応答しなかったならば、正しい絵を指さし、

「ほら。これが子どもたちが一緒にボール遊びをしている絵ですよ」と言う。

その後はトライアル2-6についてそれ以上の助けを行わずに提示を行う。

トライアル2 子どもが食べています。

トライアル3 女の子が泳いでいます。

- トライアル4 男の子が色を塗っています。
トライアル5 子どもが寝ています。
トライアル6 子どもたちが一緒に歩いています。

記録用紙には、児が正しい絵を認識したトライアルの欄にチェックを入れる。

採点：もし児が最低3つの絵を正しく認識したならば採点する。

B135.8つの積み木で塔を建てる

<積み木>

項目 B97 を参照

採点：もし児が最低8つの積み木を使って塔を建てたならば採点する。採点を行うのは、児が手を離しても、積み木が上に載っている時のみである。崩れたものは採点しない。検者が作った塔に積み木を足した物も採点しない。

施行上の注意：項目 B138 はこの項目の直後に施行する。

シリーズの前項目：項目 B123

(終) 20-22ヶ月

運動尺度 (BM58 ~ BM86)

(始) 12ヶ月

BM58. 鉛筆を持ち手のところで持つ(クーパー?)

<座位>

施行：児の前のテーブルの上に紙を置く。次に、先端を児の反対の方向に向けて鉛筆を紙の中央に置き、呼びかける；

「絵を描いてみてごらん」

児に描かせるために1、2分を与える。

もし児が鉛筆を持たなかったならば、

「ほら、どうぞ何かを描いてごらん。なんでもいいのよ。」と声をかける。

採点：もし児が鉛筆の先端1/3から遠い方を握ったならば採点。(図参照)もっと先端に近いところを握っていてもよい。

BM59. 立ち上がる I (腹臥位になってから)

<座位>

施行：おどけたような様子で児を支えにできるような物体から遠ざけて仰向けに置く。そして楽しげに、

「ほら、立ってごらん！はやくはやく！」と言う。

採点：もし児がまず腹臥位に転がり、何の支えもなく立ち上がれば採点。もし児が立つ前に側臥位になったり、しっかりした座位になっても採点する。

採点上の注意：項目 BM68(立ち上がる II、腹臥位にならずに立ち上がる)もここで採点する。

シリーズの前項目：BM52

BM60. 支えられて歩く

施行：検査を通じて、児があなたや家具を支えにして歩くかどうかを観察する。

もし児が歩こうとしなければ、児の片方の手を持って児を支え、床に立たせる。

採点：もし児がわずかな支え(あなたの片手や、片手で家具を持つなど)で協調した歩行運動をみせて歩けば採点。もし児が一人で歩けばこれも採点。

シリーズの前項目：BM54

(始) 13ヶ月

BM61. ひとりで立つ <立位>

施行：検査中を通して児がひとりで立つかどうかを観察する。もし児が自発的にひとりで立とうとしない場合は、児を床に立たせ肩位置の高さで児の手を保持する。もし児が立っている間体重を支えることができそうなら、ゆっくりと補助を緩め、ひとり立ちへと導く。児がバランスを崩したときのために補助の体勢はしっかりと作っておく。

採点：少なくとも2秒間はひとりで立っていることができれば採点する。

採点上の注意：項目BM62（ひとりで歩く）、項目BM63（うまく協調してひとりで歩く）も同時に採点する。

シリーズの前項目：BM60

BM62. ひとりで歩く <立位>

施行：検査を通して、児がひとりで歩くかどうかを観察する。

もし児が自発的にひとりで歩かない場合、児を床に立たせ肩位置の高さで児の手を保持する。児のそばに補助になるような物がないことを確認する。ゆっくりと補助を緩め児がひとり立ちできる状態にする。児が前方へ歩くように励まし、腕は伸ばしたまま児を招き入れるようにする。児がバランスを崩してもすぐ補助できるような体勢を作っておく。

記録用紙には児が歩いた歩数を記録する。

採点：少なくとも3歩補助なしで歩けたら採点する。このとき、児の脚が硬直して不安定でもよい。

シリーズの前項目：BM61

(始) 14-16ヶ月

BM63. うまく協調してひとりで歩く <立位>

施行：検査を通して、児が1人で部屋の中を歩くかどうかを観察する。

もし児がこの活動に興味を示さない場合、おもちゃをおおよそ5フィート(約1.5m)離れたところに置き、児に1人で歩いておもちゃを取るように促す。

記録用紙には児が歩いた歩数を記録する。

採点：児が1人で少なくとも5歩歩いたら採点する。バランスよく、よい協調運動で歩くこと。児の脚が硬直して不安定な場合は採点しない。

シリーズの前項目：BM62

BM64. ボールを投げる

＜立位＞

もし児が1人で立つことができない場合、児がテーブルまたは床に座っているとき行う。

施行：児にボールを見せながら言う。

「さあ、ボールで遊びましょう」

オーバーハンドでボールをゆっくりと児の正面、児が取れる所に投げる。

もし児がボールを取って前に投げるができない場合、ボールを児の手に持たせ児に向かって言う。

「さあ、私に向かって投げてごらん」

もし児がボールを投げない場合、児からボールを取り上げて児にもう一度投げ、児に投げ返すように促す。

採点：児が意図的にボールを前方に投げたら（fling；弧を描くように投げる）採点する。もし、児がボールを転がしたり落としたり、後方へ投げたりした場合は採点しない。

BM65. わずかの間しゃがむ

＜立位＞

施行：児が遊んでいる間、バランスを保ちながら、立位からしゃがみ、再び立位へ姿勢を変えるかどうかを観察する。児はたいていおもちゃで遊んでいるときや床にあるおもちゃを取るときなどにわずかの間しゃがむ。

採点：児がバランスを保ちながら、立位からしゃがみ、再び立位へ姿勢を変えることができたなら採点する。

シリーズの前項目：BM55

（始）17-19ヶ月

BM66. 支えを使い階段を昇る

＜立位＞

施行：児を階段の下に連れてくる。もし児が自発的に階段を上らない場合、おもちゃを階段の3段目の中央に置き階段を上っておもちゃを取るように促す。このとき、児のそばに立ちバランスを崩してもすぐに補助に入れるようにしておく。ただし児の手を持ってはいけない。

採点：児が少なくとも階段を2段、壁や手すりを支えにして上ることができたら採点する。壁や手すりの補助なしに上ることができても採点する。

採点上の注意：この項目で項目BM79（階段をひとりで歩いて昇る(両足で一段づつ)）も同時に採点する。

施行上の注意：児がこの項目を通過できた場合、すぐに項目BM69（支えられて階段を下りる）を施行する。もし児がこの項目を通過できなかった場合、項目BM69は施行または採点しない。

BM67. 後ろ向きに歩く

＜立位＞

施行：検査を通して、児が後ろ向きに歩くかどうかを観察する。